

1 学校教育目標
「豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる北小っ子」の育成

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

2 学校経営ビジョン	
○めざす学校像	・静かな中で活気あふれる学校 ・美しい学校 ・思いやりと感謝に満ちた学校 ・明るく楽しい学校 ・開かれた学校
○めざす教師像	・一人一人の子どもを「かけがえのない存在」として認識し、「子どものよさ」と「可能性」を信じ、一人一人を大切にす教師 ・教育的情熱と愛情を持つ教師 ・自ら課題を持ち、研修を重ね、教育的実践力を磨く教師 ・使命感を持って、教育実践に励む教師 ・子どもや保護者、地域社会に信頼され、同僚に敬愛される教師 ・教育公務員及び全体の奉仕者として行動できる教師
○めざす子ども像	と 友達や自分のよさを見つける子ども す 進んで勉強する子ども き 聞く耳を持つ子ども た たくましく、元気な子ども

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む。絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
1 学力向上を図る指導体制の確立。(校内学力向上委員会、少人数TTを中心に学習指導の改善に努める。)	・学校運営方針については、保護者には学校便りや学年便りで、児童には校内掲示や全校朝会等で分かりやすく周知した。学校目標をより具体的に発達段階に応じて根付かせていっている。今後も継続して周知率を上げていく必要がある。
2 「心の教育」の充実(心を豊かにするとともに思考力・判断力を高め、自らコントロールすることができるように働きかける。)	・学力面では、NRTの結果では概ね良好であるが、5年生の県学習状況調査では、社会や理科に比べ国語と算数の達成率が低く、ほぼ県平均である。特に、思考・表現に課題が残っている。読書量は確実に増加しており、図書担当者、司書補、図書委員会などとの連携を組織的にいながら、本が好きな児童の育成を図る。
3 健康・安全教育の徹底(健康・安全への関心を高め、体力向上や疾病・けがや危険から身を守る事ができるように取り組む。)	・「心の教育」の一環としてのふれあい道徳では、授業参観後に保護者に感想を書いてもらった。心の教育に対する保護者の関心の高さを実感した。
4 特別支援教育の推進(教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善するために適切な指導・支援体制を推進する。)	・地域との交流や異学年との交流、幼保小交流等に取り組み、いろいろな人との心のふれあいができたが、地域でのあいさつやことば違い等、まだ、十分でない面がある。道徳の実践につながるよう指導を続けたい。
5 教育環境及び教育的組織の整備・充実(人的環境及び施設・設備の整備をするとともに、地域の人材を教育活動に積極的に生かす。)	・保健安全面では、交通指導員、見守り隊のおかげで、安全に登下校ができています。しかし、安全指導は継続して指導が必要である。
6 幼との連携推進、小中一貫教育の推進	・特別支援教育では、市からの特別支援学級生活指導員や普通学級指導員の配置により、個に応じた支援を計画的に行った。児童の状況に応じて支援体制の見直しをしながら、取り組んだ。教育相談や巡回相談、病院との連携を行い、よりよい指導を探った。交流学級との連携がさらに必要である。 ・学習がんばり週間の設定により、教職員も児童も意識の向上がみられた。 ・低学年学習改善充実のTTとして、学年全体を把握した指導が図られた。 ・家庭との連絡を密に行い、児童の指導に役立てた。

重点目標をそれぞれ再掲し、重点目標ごとに、成果や課題を具体的に評価するためには、どのような評価項目や指標を盛り込むべきかを考え

5 総括表
① 学力向上を図る指導体制の確立。(校内学力向上委員会、少人数TTを中心に学習指導の改善に努める。)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○学力向上	・国語科、算数科を中心とした学力の向上	・国語科と算数科のNRT検査において、全学年全国平均1ポイント以上をめざす。 ・読書量平均一人50冊以上を目指す。	・学力向上委員会の活性化を図り、具体的な方策を講じる。(諸調査の分析、算数ぐんぐんタイム〈全職員TTで取り組む補充・発展学習の時間設定〉の継続と内容の充実・朝の計算タイム) ・国語科、算数科の教材研究の充実を図り、実践につなげる努力をする。 ・学級担任が全員、国語授業研究会(全研・部研)を行い研修を深める。 ・少人数TT担当は、算数科の授業を見せ合い、研修を深める。 ・全学級の算数で、TT・少人数授業を実施する。 ・指導方法改善に向けた校内研修会を実施し、指導力の向上を図る。 ・図書館教育計画に基づき、読書推進を図る。 ・図書館、廊下、階段を中心に読書環境を整える。
		・「まなびづくり」の基礎と校内教環境の充実を図る。	・「学習の仕方」「家庭学習」「学習用具の準備」など「まなびの基礎」の定着度85%をめざす。	・全校でまなび方に係る掲示物を作成し定着させる。 ・年間数回、家庭学習や生活状況調査を実施し、定着度を把握するとともに指導方法の工夫改善を図る。 ・授業研究会時に職員が各学級の児童の学ぶ姿勢を観察し評価し合う。
特定課題	○小学校低学年の学習環境の改善充実(TT指導)	・基本的な生活習慣・学習習慣の育成	・生活面では「元気な挨拶をする」「チャイムの合図を守る」「早寝早起き朝ごはん」、学習面では「話をよく聞く」「きちんと返事をする」「進んで読書をする。」に重点をおいて指導をする。 ・生活アンケートで90%以上を目指す。	・「チャイム」「挨拶」「話の聞き方」「返事」などの約束事を学年・学級で決め、帰りの会等で自己評価を行ったり、その都度励ましたりしながら定着を図る。 ・読み聞かせやお話会などを活用し読書への関心を高める。 ・保護者との連携を図るために、生活習慣の重要性を懇談会やお便りで知らせる。 ・保護者アンケートを実施し、取り組みの成果と課題を保護者に公表する。

② 「心の教育」の充実(心を豊かにするとともに思考力・判断力を高め、自らコントロールすることができるように働きかける。)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策

教育活動	○心の教育	・「こころづくり」の視点に基づく授業・学校行事の推進	・全学級で「ふれあい道徳」の授業公開を年1回以上行う。 ・体験的な活動や異学年や地域の人との交流活動を行う。 ・心を育む環境づくり	・参観日に道徳の授業(ふれあい道徳)の公開を行う。 ・資料を厳選し、毎週1時間の道徳の授業を充実させる。 ・「心のノート」の計画的活用を図る。 ・周囲の環境は児童の心に大きく影響を及ぼす事を認識し、学習環境、心に響く校内環境、言語環境など全校で共通した取り組みを行う。 ・様々な行事との連携も視野に入れ、体験的な活動を取り入れる。
------	-------	----------------------------	---	---

③ 健康・安全教育の徹底(健康・安全への関心を高め、体力向上や疾病・けがや危険から身を守る事ができるように取り組む。)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○健康体づくり	・健康体づくり・安全教育の推進	・保健指導・性教育を推進する。 ・朝食喫食率90%をめざす。 ・安全教室や防犯教室等を開催し、安全意識・防犯意識を高める。 ・防犯ブザーの100%所持を徹底する。 ・業間、昼休みの外遊びを奨励し、体力の向上を目指す。	・養護教諭と連携して保健指導・性に関する教育の指導を推進する。 ・フツ化物洗口の円滑な実施と歯磨き活動を推進する。 ・学校栄養職員と連携した給食・食育指導を各学級で実施する。(学級活動・生産者との給食会・PTA試食会等) ・安全教育の徹底と防犯意識の高揚に努める。(交通安全教室・犯罪防止指導・薬物乱用防止キャラバンカーの活用) ・隔週金曜日に防犯ブザー点検を行い、防犯意識を高める。 ・週1回、業間休みに放送で外遊びを呼び掛ける。

④ 特別支援教育の推進(教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善するために適切な指導・支援体制を推進する。)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別支援教育	・特別支援教育の推進	・個別の教育支援計画を作成し、校内支援体制を確立する。 ・適正就学指導に向けて年間をととして教育相談を継続する。	・特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援体制を作る。 ・担任が作った教育支援計画をもとに、校内支援委員会で個々に応じた年間の手だてについて検討する。 ・スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら適切な支援を行う。(地域連携支援事業の活用) ・適正就学指導をふまえ、子どもの実態に応じた学級・教室経営を行う。 ・幼稚園や保育園および中学校との連携を図り、継続した支援体制づくりを目指す。特に小中一貫教育を踏まえ、連絡体制の強化を図る。

⑤ 教育環境及び教育的組織の整備・充実(人的環境及び施設・設備の整備をするとともに、地域の人材を教育活動に積極的に生かす)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	・教職員の資質の向上 ・教育的組織の整備	・教職員の服務規律保持の徹底を図る。 ・個々の教職員が自己の目標を達成する。(評価・育成システム) ・センター等の研修を受講する。 ・三部会(特活部、生徒指導部、保健体育部)による組織運営。 ・副担任制の導入による学級経営の効率化を図る。	・毎月の職員会議で飲酒運転・セクハラ撲滅・交通ルール遵守等について確認する。 ・個別面談で、目標に対する進捗状況の確認を行い、目標達成への意欲を高める。 ・自分が受講した研修等で得たものを他の職員に知らせる場を設定する。 ・研究課題の解決に向けた実効性のある校内研究を推進する。(全職員による授業公開と焦点化した研究協議) ・個人提案から、部会で話し合った上での提案に。組織で取り組み組織で動く。 ・級外の担当学級を決め、担任のフォローアップを図る。
	○学校運営方針の周知	・本年度の重点目標の周知	・教職員・児童・保護者に周知し、周知度を85%以上にする。	・職員会議、全校朝会等で説明する。 ・学校便り、PTA総会、各種行事等で具体的な取り組みを知らせる。 ・教育目標「と」「す」「き」「た」を保護者、児童に分かりやすい合い言葉にし、校舎内、教室掲示等を通して周知する。 ・ホームページに掲載し、周知を図る。
	○開かれた学校づくり	・開かれた学校づくりの推進	・学校だより・ホームページ等を活用し学校の様子を保護者や地域へ発信する。 ・地域ボランティアの活用推進を図る。	・毎月学校だよりを発行し、教育活動等を発信する。また、各種行事等への参加を依頼する。(保護者、区長会、民生委員会との連携) ・フリー参観日には区長さんや見守り隊の方にも呼びかけ、参観及び懇談の時間を設ける。 ・ホームページを随時更新し、学校の今の情報を発信する。(情報教育指導補助員の活用・連携) ・読み聞かせや家庭科等の地域ボランティアの教育力を活用するとともに職員も読み聞かせに参加をする等組織との連携を図る。 ・年間をととして児童や保護者の状況を把握し、必要に応じて教育相談を行い、保護者との連携を一層推進する。 ・各学年で保護者や地域に向けた活動を仕組む。

⑥ 幼との連携推進、小中一貫教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育	○基本的学習習慣の定着	・基本的学習習慣の定着 ・家庭学習の定着	・中学校で必要とされる学習習慣を小学校から定着させる。	・学習館がんばりカードの作成。自己評価を毎学期1回行う。 ・宿題忘れなしを家庭との連携を図り90%以上の達成を図る。 ・4年生から6年生に自学ノートを活用させる。(学年の実態に応じて段階的に取り組む。)

活動	○特別支援教育	・特別支援教育での連携	・適正就学指導に向けて年間をとおして教育相談を継続する。	・幼稚園や保育園および中学校との連携を図り、継続した支援体制づくりを目指す。特に小中一貫教育を踏まえ、連絡体制の強化を図る。
----	---------	-------------	------------------------------	--